

伊能忠敬関係資料2,345点国宝指定記念描き下ろし

漫画

# 伊能忠敬物語

作・藤みき生



伊能忠敬は1745年(延享2)、小関村(現九十九里町)で生まれ、幼名は三治郎とつけた。

母の死後10歳で小堤村(現横芝光町)へ移り住んだが、小さい頃から学問の好きな子供であった。

そして17歳の時佐原村(現香取市)の伊能家へむこ養子に来たのだった。

妻 ミチ子 21歳

佐原村  
小堤村  
小関村

伊能家を もっともっと大きくするぞ

そして伊能家は その5組の名主の 中でも名門だった。

佐原村は5つの組ぐみからなり、それぞれの名主なぬし(代表者)を中心として村が運営されていた。

組のほかに町まちがあり、その町々が催したのが、今も続く佐原の大祭である。

本宿  
小野  
新宿  
川

仁徳天皇

当時の佐原は 関東有数の都市であり、

家数は 1000軒 人口5000人を 超えていた。



忠敬には商売の才があり、一生懸命働ぎ伊能家を繁栄させていった。

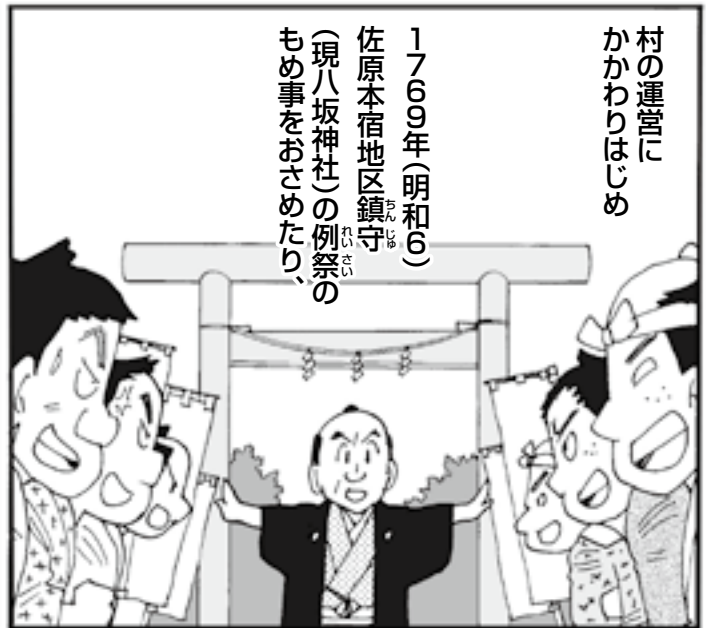


伊能家は酒造と金融業、運送業など手広く営んでいた。



結局、忠敬と親戚の二人で税金を支払うことを願い上げた。

1772年(明和9) 忠敬27歳の時には佐原に河岸役という税金をかける幕府の政策に対し、村を代表して折衝にあたり賦課されないように努力したが、



村の運営にかかわりはじめ

1769年(明和6) 佐原本宿地区鎮守(現八坂神社)の例祭のもめ事をおさめたり、



5~6月にかけて妻ミチと松島への東北旅行をした。

1778年(安永7) 忠敬33歳



このように佐原のために力を尽くした忠敬は

村人たちからも尊敬を得られた。

行きは太平洋沿い、  
帰りは内陸を通り、  
約一カ月の旅行で  
あった。

きれいで  
すね

うむ

途中  
松尾芭蕉等の  
歌を書き留め  
「奥州紀行」を記す。

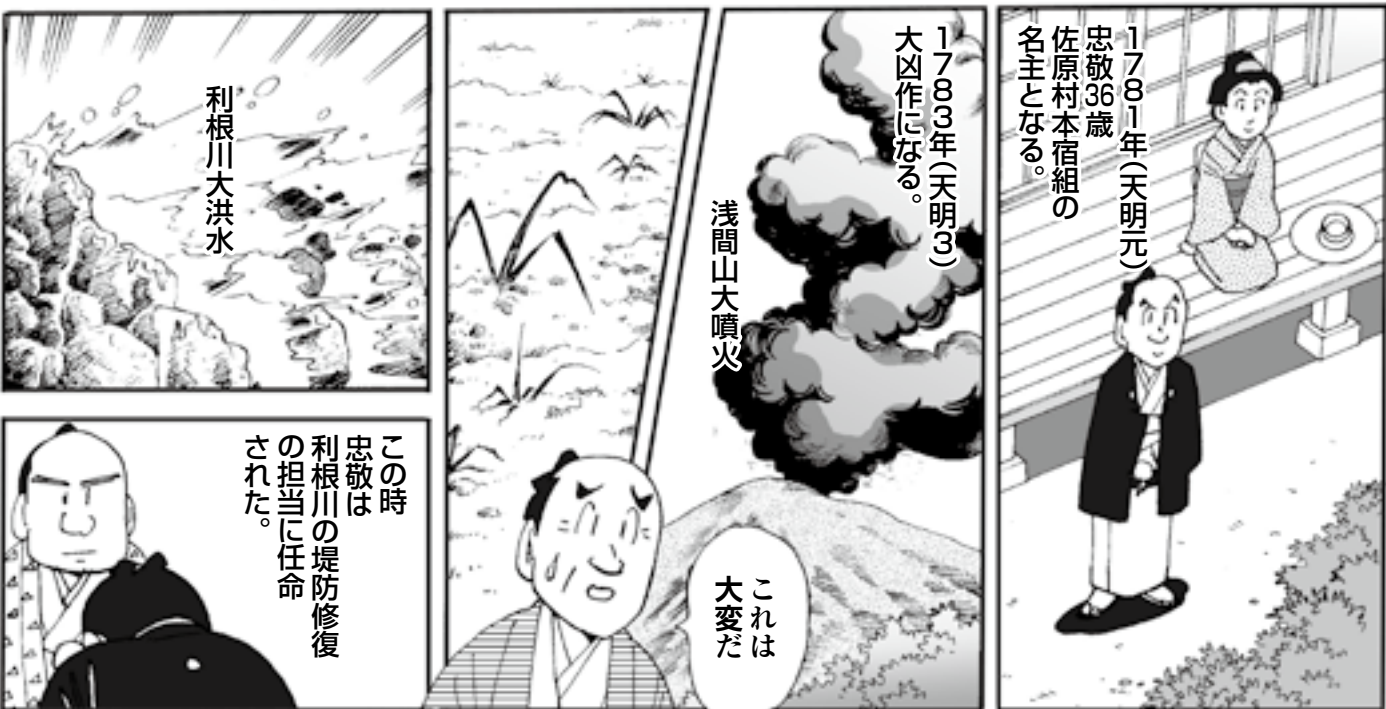


1781年(天明元)  
忠敬36歳  
佐原村本宿組の  
名主となる。

1783年(天明3)  
大凶作になる。

浅間山大噴火

利根川大洪水



これは  
大変だ

この時  
忠敬は  
利根川の堤防修復  
の担当に任命  
された。

それにより  
工事の賃金で  
村人達が生活  
できるように  
した。

さらに村のために工事費の残りを  
積みたてた基金  
(永久相続金)を創設。

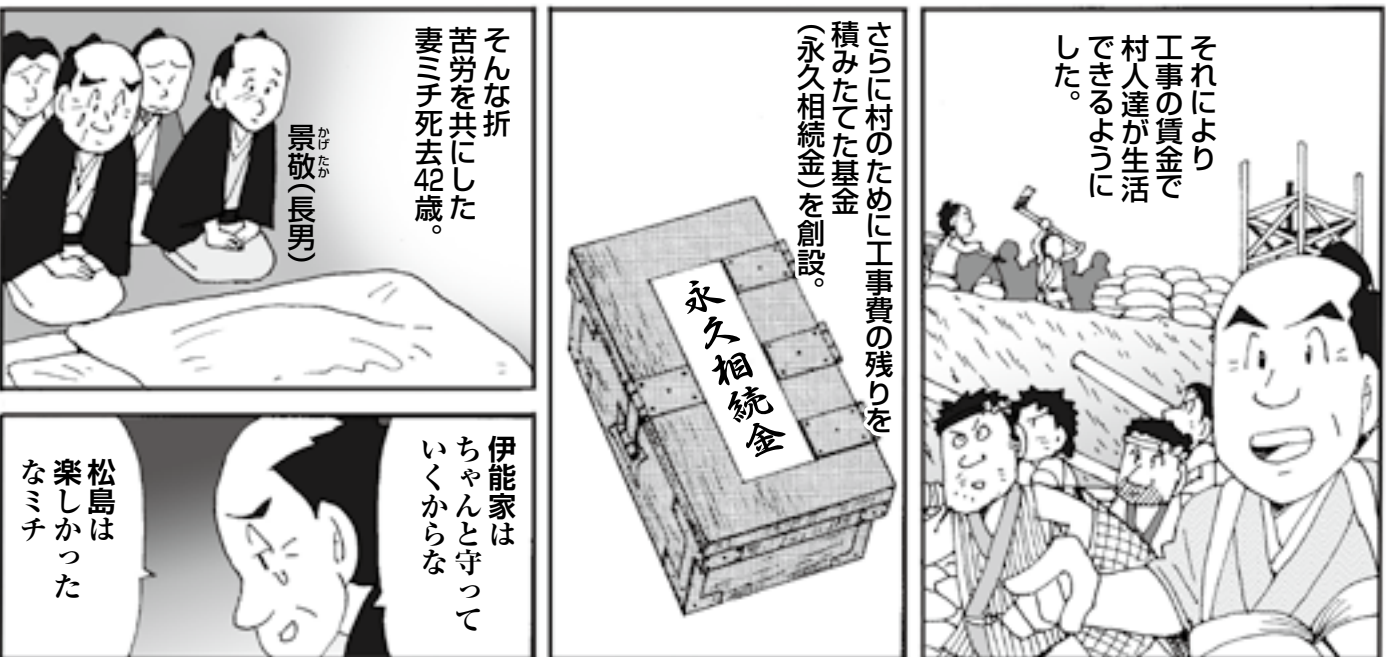
永久相続金

そんな折  
苦勞を共にした  
妻ミチ死去42歳。

景敬(長男)

伊能家は  
ちゃんと守って  
いくからな

松島は  
楽しかった  
なミチ



1784年(天明4)  
忠敬39歳

本宿組名主を  
やめ  
村方後見(名主の後見人)と  
なる。



1786年(天明6)  
再び大凶作、  
そして利根川の  
大洪水。



この蔵の米を  
村人のために  
出そう!



村の混乱も  
未然に防いだ。



1790年(寛政2)  
仙台藩医桑原隆朝の  
長女ノブを  
二度目の妻に迎える。



その後も家業は  
栄え、学問にも  
さらに身を入れる  
ようになっていった。



1791年(寛政3)

家訓書を書く。

私の信念を  
景敬へ残して  
おこう



第一 少しも嘘をつかず、  
正直にきなさい

第二 どんな人のいうことでも、  
役に立つことや  
正しい意見であったら、  
必ず用いて守りなさい

第三 言葉と行動をゆるやかにして、  
万事へりくだって、しつこく、  
少しの争論もしてはならない

第三 言葉と行動をゆるやかにして、  
万事へりくだって、しつこく、  
少しの争論もしてはならない

1793年(寛政5)

忠敬48歳

久保木竹窓  
らと

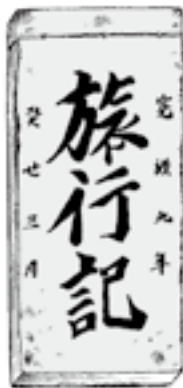
伊勢神宮など  
関西旅行。



佐原にいる頃から  
暦学を独学で学んで  
いたため、  
方位や緯度を記録した  
忠敬は、



「旅行記」として  
記す。



1794年(寛政6)  
隠居が認められ  
家督を長男景敬  
に譲り勘解由と  
名乗る。  
1795年  
(寛政7)  
妻ノブ死去。  
父上  
はい  
まかせた

私は  
どうしても  
天文曆学を  
やりたい

学問に専念したい  
忠敬は江戸へ旅立つ。  
50歳の時であつた。  
浅草  
司天台  
そして  
江戸深川黒江町に  
住み高橋至時(31歳)  
の弟子となり  
天文学を学ぶ。

そして1800年  
(寛政12)  
忠敬55歳  
蝦夷地(北海道)への測量を  
皮切りに日本の地図  
測量の事業へ旅立った。  
1818年5月17日(文政元年4月13日)  
忠敬 没(73歳)、  
その3年後の1821年(文政4)  
「大日本沿海輿地全図」が  
完成!

### 伊能忠敬をささえた人々

この大事業は  
佐原時代に培われた  
学問への探究心と、  
佐原と周辺の人々の  
協力無しでは決して  
できなかったであろう。

忠敬たちの測量は  
第10次まで続き、  
歩いた距離は  
地球一周とほぼ同じ  
4万キロメートル  
にも及んだ。

- 伊能妙薫  
娘-伊能家を  
ささえる
- 久保木竹窓  
香取市津宮出身  
伊能図作成に  
協力
- 大川治兵衛  
香取市津宮出身  
伊能家の  
帳元締めをやり、  
忠敬、景敬親子  
を援助
- 伊能秀蔵  
息子・1~6次  
測量参加
- 平山郡蔵  
多古町出身、  
2~5次  
測量参加、  
地図作成
- 平山宗平  
多古町出身  
郡蔵の弟、  
1~2次  
測量参加
- 小坂寛平  
多古町出身、5次測量参加
- 神保正作  
横芝光町出身  
忠敬の兄の子  
6次測量参加
- 永沢藤治郎  
香取市佐原出身  
5次測量参加
- 宮野善蔵  
成田市伊能出身  
8次測量参加
- 久保木佐右衛門  
香取市津宮出身  
6、8次測量参加
- 久保木佐治右衛門  
(佐助)  
香取市津宮出身  
6、8次測量参加